

令和元年度 しがはいすくーるおすすめ本50選 優秀作一覧

優秀作50編(書籍タイトル数44)
応募総数2,206編(23校)

No	書名	著者名	学校名	学年
1	ぼくがいちばんききたいことは	アヴィ	大津高校	3
2	吾輩も猫である	赤川 次郎 他	水口高校	1
3	暗黒女子	秋吉 理香子	水口高校	1
4	陸王	池井戸 潤	国際情報高校	2
5	金メダル男	内村 光良	国際情報高校	2
6	十二人の死にたい子どもたち	冲方 丁	草津高等学校	3
7	桜のような僕の恋人	宇山 佳佑	守山高校	2
8	記憶屋	織守 きょうや	守山高校	1
9	甘い物は脳に悪い	笠井 奈津子	守山高校	2
10	正義という名の凶器	片田 珠美	守山高校	2
11	ナースコール！	川上 途行	国際情報高校	1
12	世界から猫が消えたなら	川村 元氣	大津高校	1
13	世界から猫が消えたなら	川村 元氣	能登川高校	2
14	友だち幻想	菅野 仁	守山高校	1
15	渋谷ギャル店員 ひとりではじめたアフリカボランティア	栗山さやか	MIHO美学院中等教育学校	5
16	ディズニー式サービスの教え	小松田 勝	守山高校	2
17	面白くて眠れなくなる数学	桜井 進	東大津高校	2
18	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	草津高校	3
19	スマホを落としただけなのに	志駕 晃	国際情報高校	1
20	君の臓腑をたべたい	住野 よる	大津高校	1
21	また、同じ夢を見ていた	住野 よる	国際情報高校	2
22	そして、バトンは渡された	瀬尾 まいこ	能登川高校	2
23	ぼくらの七日間戦争	宗田 理	大津高校	1
24	ぼくらの七日間戦争	宗田 理	水口高校	1
25	人間失格	太宰 治	国際情報高校	1
26	ホームレス中学生	田村 裕	近江兄弟社高校	2
27	ホームレス中学生	田村 裕	守山高校	1
28	8年越しの花嫁	時海 結以	能登川高校	1
29	レジ待ちの行列、進むのが早いのはどちらか	内藤 誼人	草津高校	3
30	三四郎	夏目 漱石	守山高校	1
31	都会のトム&ソーヤ	はやみね かおる	国際情報高校	2
32	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野 圭吾	国際情報高校	1
33	パラレルワールド・ラブストーリー	東野圭吾	近江兄弟社高校	2
34	鋼のメンタル	百田 尚樹	守山高校	2
35	フォルトウナの瞳	百田 尚樹	大津高校	1
36	フォルトウナの瞳	百田 尚樹	守山高校	1
37	時給三〇〇円の死神	藤まる	大津高校	1
38	おおかみこどもの雨と雪	細田 守	国際情報高校	2
39	人を動かす「色」の科学	松本 英恵	守山高校	2
40	三日間の幸福	三秋 縊	大津高校	1
41	三日間の幸福	三秋 縊	大津高校	3
42	三日間の幸福	三秋 縊	守山高校	2
43	母性	湊 かなえ	大津高校	3
44	水族館ガール	木宮 条太郎	守山高校	1
45	ゾウの時間ネズミの時間	本川 達雄	守山高校	1
46	世界のオモシロお仕事集	盛田 則夫	守山高校	2
47	夜行	森見 登美彦	大津高校	1
48	学校のぶたぶた	矢崎 存美	守山高校	1
49	93番目のキミ	山田 悠介	水口高校	1
50	「のび太」という生きかた	横山 泰行	甲西高校	1

令和元年度

「しかはいすくーるおすすめ本 50 選」優秀作品

(氏名の有無は本人の希望です)
(著者名の 50 音順に並んでいます)

『ぼくがいちばんききたいことは』 アヴィ 著 青山 南 訳 ほるぷ出版

この本は、複雑な家庭で暮らすこどもには共感と辛い思いをしているのは自分だけではないという心の拠り所。複雑な家庭を作り出してしまった大人にはこどもの感情や辛さへの理解を与えてくれる。そうでない人でも、自分の家族に疑問を持ったことが一度はあるだろう。覆しようのない家族の問題について深く考えるきっかけになるはずだ。

たくさんの人が読み、様々な家庭の形や自分の家族への理解を深めてほしい。

(大津高校 3 年 花岡 凜々杏さん)

『吾輩も猫である』 赤川 次郎/新井 素子/石田 衣良/荻原 浩/恩田 陸/

原田 マハ/村山 由佳/山内 マリコ 著 新潮文庫

この本は著者が 8 人いて、それぞれの著者が自分の思うように「吾輩は猫である」を書きかえ、アレンジされ完成した本です。別々の人たちが書いているので、一匹一匹の猫に個性が出ており、同じ猫でも、様々な視点から書かれているので、8 人の著者が同じ夏目漱石の猫とは思えないような場面も多々あり、8 人の著者を一気に楽しめるといった猫好きにピッタシの本です。

(水口高校 1 年 林 虎河さん)

『暗黒女子』 秋吉 理香子 著 双葉社

聖母女子高等学院文芸サークルの元会長白石いつみが校内の花壇ですずらんの花を握りしめて死んでいた。いつみに何が起こったのか、いつみは何を伝えたかったのか。その死をテーマにそれぞれの部員が書いた短編小説を朗読し合う形で物語が進んでいくミステリー小説。2017 年に映画化された話題作で、ラストのどんでん返しに、きっと皆衝撃を受けるはず。

(水口高校 1 年 西郷 絢華さん)

『陸王』 池井戸 潤 著 集英社

様々なランニングシューズが開発、販売されている今この時代、いまだ足袋を作っている会社が埼玉県にあった。「こはぜ屋」。創業百年、二十七名の従業員を抱える老舗である。足袋を生業としてきたこはぜ屋は、時代の流れにより廃業の危機に瀕していた。社長の宮沢紘一は、先代から受け継いだ会社を潰させまいと日々奮闘していたのだが、そんな時、新しいビジネスの話が舞い込んでくるのであった。

(国際情報高校 2 年 山中 翔真さん)

『金メダル男』 内村 光良 著 中央公論新社

この本を一言で表すとすれば、人生山あり谷ありです。主人公の秋田泉一は小学生の時に運動会の徒競走で1位をとった事がきっかけで1番になることの幸福感、優越感にとりつかれます。しかし中学校に入学してからはすっかり1番ということから見放されてしまいます。私は何事もうまくいかないと落ち込んでいる人にこの本をおすすめしたいです。なぜならこの本はうまくいかない時こそ学ぶ事があるということを教えてくれるからです。

(国際情報高校2年 園田 有菜さん)

『十二人の死にたい子どもたち』 冲方 丁 著 文春文庫

廃病院に集まった十二人の子ども達。子ども達の目的は安楽死をすること。病院の一室ですぐに実行される予定だったがベッドにはすでに一人の少年が横たわっていた。彼は何者か、これは殺人か、このまま実行してよいのか。実行するためのルールは全員一致。議論か実行か十二人の意見が分かれる。議論の中でぶつけ合うそれぞれの死にたい理由、十代の切ない思いに自分を重ねて心を打たれました。生きることを深く考えられる作品です。

(草津高校3年 中川 真衣さん)

『桜のような僕の恋人』 宇山 佳佑 著 集英社文庫

美容師の美咲に恋をした晴人。そんな二人は意外なきっかけでデートをすることに。自分のために一生懸命な晴人に惹かれた美咲。美咲は人の何十倍もの早さで年老いる難病を発症してしまったのだった。自分の老婆の姿を晴人に見られたくない美咲と別れを告げられても一途に思い続ける晴人、二人の結末とはそして晴人がみたあのときの美咲、あのときの言葉とは。誰もが夢見る二人の愛の深さに注目の一冊です。

(守山高校2年 西山 琴音さん)

『記憶屋』 織守 きょうや 著 KADOKAWA／角川ホラー文庫

「魔法のように人の記憶を消してしまえる」都市伝説として語られるような記憶屋の存在を遼一が確信したのは、真希、杏子、そしてもう一人の人物、この3人が同じように、“ポッカリ”と一部の記憶を失くしたことがきっかけだった。そして遼一が記憶屋の真相を暴こうとするにつれて、記憶を消したいと願う人々の悲しくもあたたかい物語が明らかになる。読み進めるほどに、いくつもの驚きと切なさに遭遇します。

(守山高校 1年生)

『甘い物は脳に悪い』 笠井 奈津子 著 幻冬舎

あなたは、「疲れたときに甘い物」は逆効果であることを知っていますか。この本は、そういった食について思わず驚いてしまうような事実などを紹介しています。体をつくる基となる食事。もちろん精神にも影響を与えます。挫折した時、集中力が欲しい時。そんな時にも食事一つで大きく変わります。いろいろな食べ物が当たり前身近にある現代。何気なく食べている食事の重要性に改めて気づかされる一冊です。

(守山高校2年 大馬 蒼生さん)

『正義という名の凶器』**片田 珠美 著****ベストセラーズ**

インターネットの急速な発展により、人々は他人の「間違い」を簡単に指摘、攻撃する手段を手に入れました。芸能人や政治家の失敗に対する SNS を通じた過剰なバッシングは既に珍しい光景ではありません。これは時に無関係の一般人をも巻き込み、正義を装った凶器となって多くの人々を傷つけます。この凶器を振りかざす彼らが抱える「正義依存」という病の本質や対策に迫る、現代人必読の一冊です。

(守山高校 2 年生)

『ナースコール!』**川上 途行 著****ポプラ社**

リハビリテーション病院で働く玲子は、リハビリテーションで働くことにあまりやりがいを感じられずやる気に欠ける看護師。ある日赴任してきた若い医師に「リハビリってどんな意味？」と聞かれ答えられなかった玲子は必死にリハビリの本当の意味を模索する。未来に不安を感じたり、努力しても報われないことがあったり思い通りにならず苦しむことは、リハビリをしている人だけでなく多くの人が境遇と重ねることができる本です。

(国際情報高校 1 年 鎌田 優花さん)

『世界から猫が消えたなら』**川村 元気 著****小学館**

あなたは、自分の命と引き換えに世界から大切な物を消す選択ができますか。

この作品は、悪魔と取引を行い世界からさまざまな物を消し寿命を延ばして生きていく男性の物語です。電話や映画、時計。生活になくては困るものや大切なペット。

この作品では、身近な命の大切さや生きていることのすばらしさ、自分の人生で何を大切にしていけばいいのかがよく考えさせられ人生のためになる作品です。

(大津高校 1 年 上田 智聖さん)

この作品は猫とふたりの暮らしの主人公の男がある日突然、脳腫瘍で余命わずかだと宣告され、絶望しながら家に帰ると自分とそっくりな姿の男がいた。その男は自分は悪魔だと言い世界から何かを消すかわりに 1 日命を得るという取引を持ちかけてきて主人公が次々と世界からモノを消していく七日間の出来事を描いた本です。この本はいかに私たちが日常の中で大切なものを見落としているかが分かる作品だと思います。

(能登川高校 2 年生)

『友だち幻想』**菅野 仁 著****筑摩書房**

「クラスはひとつ、みんないっしょだ」という先生の話聞いて、違和感を感じた人はいませんか。友達と仲良くなる、友達を大切にすることは大切ですが、気が合わない人とも、無理をしても関わって仲良くしなければいけないのでしょうか。そんな難しい「人づきあい」に悩んでいる人が読めば、きっと少しは気が楽になります。「この人と付き合えて本当によかったな」と思える「人づきあい」をあなたもしてみませんか。

(守山高校 1 年 大道 和香菜さん)

『渋谷ギャル店員 ひとりではじめてアフリカボランティア』 栗山 さやか 著 金の星社

「人に二つの手があるのは一つは自分を守るため、もう1つは人を助けるため。」この言葉が深く印象に残ったこの本は皆さんの考え方も変えるでしょう。人生に生き詰まった“さやか”は、広い世界を見ようと世界中を旅しに。気が付くとアフリカでボランティアをしていました。目の当たりにしたのは病気でどんどん死んでいく人の姿でした。誰も一人ではすべてのことはできないけど、誰でも何か1つできる事を気づかせてくれた本です。

(MIHO 美学院中等教育学校5年 大園 里美さん)

『ディズニー式サービスの教え』 小松田 勝 著 宝島社新書

この本は、世界にも誇るディズニーのサービスの流儀が細かく説明されているからです。ディズニーに行くと毎回キャストのサービス精神の高さに驚かされます。これにはウォルトの願いが大きく影響しているのがこの本を読んで分かりました。今、人がわすれがちになっている思いやりの心をウォルトの心念とともに深く著されている本となっています。ディズニーに興味のある人、将来接客業をしたい人にはおすすめです。と思いました。

(守山高校 2年生)

『面白くて眠れなくなる数学』 桜井 進 著 PHP研究所

あなたは数学に出てくる記号の意味について深く考えたことがあるだろうか。私たちは普段数学の授業の中で、ギリシャ文字を使っている。しかし、「学校で文字についての講義を受けたこと」があっただろうか。ほとんどの人は、先生からなんの説明も受けず γ や θ などを使っているだろう。この本ではそういった普通数学で深く考えないことを日常生活で使える数学に交えて教えてくれる。

(東大津高校 2年生)

『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ 著 内藤 濯 訳 岩波書店

ある日、サハラ砂漠のまんなかにな不時着した飛行士が、不思議な子どもに出会った。本当のことしか知りたがらない男の子、星の王子さま。彼の目に見える世界は一体、どう映ったのだろうか。たくさんの力、疑問、温もりがつまったお話。星を転々としながら本当を見つけるのは、そう難しい事じゃないのかもしれない。小説をよく読む人も、そうじゃない人も、次々にページをめくりたくなる、そんなステキな一冊です。

(草津高校3年 土井 恵美香さん)

『スマホを落としただけなのに』 志駕 晃 著 宝島社文庫

ある女性の彼氏がタクシーの中でスマホを落としたことで様々なことが起こった。拾い主はスマホを返却するが、ハッカーをしている男だった。男は女性に興味を持ち、ハッキングしたスマホでSNSなどの情報を得て、女性の人間関係を知ろうとする。そして、ハッカーはその情報を利用して、女性へと近づいていく。一方、ニュースでは、身元不明の女性の死体が次々と見つかっていく。その事件と男、ハッカーが関係していて……。

(国際情報高校 1年生)

『君の臍臓をたべたい』 住野 よる 著 双葉社

私が紹介したい本は『君の臍臓をたべたい』という小説です。この作品は主人公である春樹とクラスメイトの桜良との秘密の関係が描かれています。桜良が病氣と戦い続ける日々の生活の中で正反対の性格の春樹と少しずつ心を通わせていく場面が見所だと思います。そして、明日が来るのが当たり前ではなく、大切なことであるという作者の思いが強く感じられる所も魅力の一つです。皆さんも是非読んでみてください。

(大津高校 1 年 北脇 奈歩さん)

『また、同じ夢を見ていた』 住野 よる 著 双葉社

この本は、強気な女の子が先生の一言で「幸せ」とは何か考え、大人からたくさんのヒントをもらいながら大人になっていく物語です。ピュアな少女の喜び、挫折、希望、色々な正直な感情にひきこまれます。迷うことや我慢することで成長していく姿に、これから大人になっていく私たちに強い刺激を与えてくれます。さらに、作者の住野よるさんの素直で複雑な言葉が心へスッと入ります。「幸せ」に真正面から向き合える一冊です。

(国際情報高校 2 年生)

『そして、バトンは渡された』 瀬尾 まいこ 著 文藝春秋

“家族は大切” 当たり前すぎて毎日の中で意識しなくなっている気持ちを思い出させてくれるお話です。主人公の優子には、父親が三人母親が二人いて、十七年間で家族形態は七回も変わっています。けれど優子はまったく不幸ではないのです。寂しいことが不幸ではないと、どの親にもまっすぐ向き合い、想い合う日常を描いた作品です。2019 年本屋大賞を受賞したあたたかい気持ちになれる一冊です。

(能登川高校 2 年生)

『ぼくらの七日間戦争』 宗田 理 著 KADOKAWA／角川文庫

ある日、東京下町にある中学校の 1 年 2 組の男子生徒全員がいなくなりました。親は誘拐されたのかと思い心配したが実は子ども達は廃工場に立てこもって「ぼくら」だけの解放区を作っていた。PTA やテレビ、汚い大人たちの悪事もまきこんだ 7 日間にもおよぶ中学生たちだけの生活。知恵、行動力、団結力、自分たちのもてる全てを使った大人たちとの総力戦。自分が中学 1 年の時のことを思いながらぜひ読んでください。

(大津高校 1 年生)

僕が紹介する本は、宗田理の『ぼくらの七日間戦争』です。子ども達は「荒川工機」というつぶれた会社を「解放区」として集い「大人と闘って子どもたちだけの世界」をつくる「解放区計画」を実現させるため仲間を集めていきます。大都会の空間で大人と闘う子どもたちの七日間が書かれた一作です。キャラクターの個性もさまざまユニークです。ぜひ読んでみて下さい。

(水口高校 1 年 川村 祐貴さん)

『人間失格』 太宰 治 著 新潮文庫

「恥の多い生涯を送って来ました。」という一文が有名なこの作品は、太宰自身の人生と結び付けて書かれている。また、作品を書いた一か月後に愛人の山崎富栄と入水自殺をしたことから、「太宰の遺書」と言われ、感慨深いものがある。作品は第一の手記から第三の手記まであり、主人公が酒、薬、女に溺れていく様が描かれている。人に値しないと考え自身に「人間失格」とくだした主人公。読み手の視点次第で様々な読み方ができる一冊。

(国際情報高校 1年生)

『ホームレス中学生』 田村 裕 著 幻冬舎

この本は、お笑い芸人の麒麟の田村裕さんの中学生時代を中心とした話です。中2の時父親の「解散!」の一言で始まった公園でのホームレス生活。そこでどんなことが起こったのか、ここからどのようにして夢であるお笑い芸人になれたのか。そこには多くの出会い、助けがあった。家族の大切さ、自分の周りにいるいろいろな人たちの大切さを改めて感じさせてくれる、感動のつまった、笑いあり涙ありの最高の本です。

(近江兄弟社高校2年 宇田川 拓海さん)

中学2年生の1学期の始業式の日、13歳の田村少年が家に帰ると、なんとドアに「差し押さえ」の黄色いテープがはられていた。その後兄と姉が帰ってきて、父が帰ってきた。父の口からは驚きの「解散!!」という言葉。兄と姉に迷惑を掛けたくなかった少年は1人で別行動。待っていたのは公園でのホームレス生活である。そこにはたくさんの苦労や、他人の温かさがあった。この少年はどのような生き方をしたのだろうか。

(守山高校1年 大橋 侃汰さん)

『8年越しの花嫁』 時海 結以 著 小学館

8年という月日が経ち、結婚したある夫婦の話です。結婚式直前、意識不明となった花嫁(麻衣)を新郎(尚志)は何日も何日も麻衣が目覚めますのを待ち続けます。そんなある日、二人に最高の奇跡が訪れるのです。麻衣が尚志を思う気持ち、尚志が麻衣を思う気持ちに涙なしでは読めません。あなたなら、意識のない愛する人をどれだけ待てますか?ぜひ二人の奇跡の訪れをのぞいてみてください。

(能登川高校 1年生)

『レジ待ちの行列、進むのが早いのはどちらか』 内藤 諄人 著 幻冬舎

このご時世、とてもストレスを感じやすい世の中だと思いませんか。そんなあなたに、この一冊。するどく見抜き、ストレスがなくなる心理術をドリル形式で学ぶことができます。本書は「観察力」と「推理力」を養うための本ですが、この2つの能力は、ともに人間として賢い生き方をするために必要不可欠な能力なのです。この本を手にとれば、あなたもこれからはもっと賢く生きられるでしょう。

(草津高校3年 大西 絢也さん)

『三四郎』 夏目 漱石 著 KADOKAWA／角川文庫

東京の大学に進学するため、三四郎は熊本から汽車で都会へと旅をする。「不愉快でたまらない。」東京のものめずらしさに衝撃を受けた三四郎は、大学へと進学する。色々な出会い、そして予想だにしない出来事、上手くいかない三四郎の恋。明治時代の青年は東京でどのようなものに会い、時に起こるハプニングをどのように切り抜けるのか。今とは違う視点から見た、三四郎の青春物語が東京で繰り広げられる。

(守山高校 1 年 酒井 諒さん)

『都会(まち)のトム&ソーヤ』 はやみね かおる 著 講談社

『都会のトム&ソーヤ』は、中学 2 年生の内人と創也の男子 2 人組が、ゲームを作るという 1 つの目標に向かって協力して挑んでいく物語です。今、何かしたくても挑戦できずにいる人、1 人で何かをするのが怖い人、そういった人たちに、「やりたいと思ったことは何でも挑戦したらいいんだ!」と思わせてくれるような、勇気をくれるような本です。ぜひ 1 度読んでみて下さい。

(国際情報高校 2 年生)

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 東野 圭吾 著 KADOKAWA／角川文庫

悪事を働いた 3 人が逃げ込んだのは既に閉店しており誰も住んでいない雑貨店だった。そこに突然、悩み相談の手紙が届くが店の周囲に人影は全くない。3 人は手紙のやり取りをしているうちにその手紙が過去から届いていることに気づく。3 人は悩める人々を救うことができるのか。そして次第に明らかになっていくナミヤ雑貨店の秘密とある施設との関係。全ての人の思いと人と人との繋がりが感動を呼ぶ。

(国際情報高校 1 年 田中 神優さん)

『パラレルワールド・ラブストーリー』 東野 圭吾 著 講談社文庫

私がおすすめする本は東野圭吾さんの『パラレルワールド・ラブストーリー』です。この本の主人公は大学時代、電車に乗っている女性のことが気になり始めます。しかし、その女性は主人公の親友の恋人だったのです。嫉妬に苦しむ主人公。ところがある日の朝、目を覚ますと彼女は主人公の恋人として隣にいました。どちらの世界が現実なのか解いていく物語です。脳内フル回転で考えさせられる物語なので、ぜひ読んでみて下さい。

(近江兄弟社高校 2 年生)

『鋼のメンタル』 百田 尚樹 著 新潮新書

「失言と暴言を繰り返す男」とマスコミから散々に叩かれても自分の信念を貫き続けてきた作家、百田尚樹さんによる爽快な精神論。「百年後の世界であなたを覚えている人もほとんどいないでしょう。」もし今挑戦することを躊躇している人や少しの勇気をなかなか持てない人がいたら、この言葉を聞いたなら心が軽くなるのではないだろうか。ドンと背中を押してほしい時、是非この本を読んでほしい。

(守山高校 2 年 佐々 比香莉さん)

『フォルトウナの瞳』**百田 尚樹 著****新潮文庫**

この本は、人の死の運命が見えてしまう青年、木山慎一郎の物語です。

彼は、ある時から人が透けて見えるようになります。透けて見える人にはみんな同じ運命が待っています。それは死です。彼はなんとか助けるために、運命を変えようとします。しかし、人を助け、運命を変えるほど彼の体に異変が起こり始めます。そんな時、小さな子供の体が透けて見えて…。

最後まで展開が気になる本です。

(大津高校 1 年 西村 風夏さん)

自動車塗装工として働く木山は、幼い頃に火事で家族を失い孤独な日々を送っていた。ある日、木山は突然「他人の死の運命」を視る力を手に入れる。木山は他人であるが、死を迎える人たちを助けていく。しかし、運命を変えてしまっているため人を助ける分、木山の寿命が縮んでいく。そんな中、木山は初めて彼女ができる。幸せな日々を過ごしていたが彼女がもうすぐ死ぬことがわかる。木山は自分を犠牲にしてまで彼女を守るのか。

(守山高校 1 年 野々村 碧衣さん)

『時給三〇〇円の死神』**藤まる 作****双葉社**

主人公である高校生、佐倉真司は同級生の花森雪希から、死者の未練をはらしてあの世へ行くキッカケを作る「死神」のアルバイトに誘われる。不信感を抱きながらもこのアルバイトを引き受けた彼は、たくさんの死者と出会う中で自分の中にある大切なものの存在に気付かされる。人生とは何か、自分の大切なものは何かと考えさせられるようなストーリーと、主人公の気持ちの変化がとても面白く感動する物語である。

(大津高校 1 年生)

『おおかみこどもの雨と雪』**細田 守 著****KADOKAWA／角川文庫**

大学生の花は一人の男に恋をした。しかし、その男はおおかみ男だった。花はそれを受け入れ、二人は愛し合い、親になる。しかし、突然、父が死んでしまう。残された母一人で2人の子供を育てることになってしまった。おおかみ子供である2人を人間かおおかみかどちらの道でも生きていけるように田舎町に移り住むことを決意した。母は2人を無事に育てることができるのだろうか。また2人はどちらの道に生きていくのか。

(国際情報高校 2 年 野原 信長さん)

『人を動かす「色」の科学』**松本 英恵 著****S Bクリエイティブ**

目の前に広がる世界は「色」で溢れている。当たり前のようにあるそれに、私たちは今日も無意識に影響されている。例えば、多くのカフェにあるコーヒー。ただ苦くて茶色いだけではない。一息ついた時「『とりあえずコーヒーでも』」と思ったことはないか。こういった気持ちも、茶色という「特別な色」の効果がある。「色の世界」は、あらゆることに「役立つ」のだ。この一冊で、色の「身近で不思議な世界」にふれてみてはどうか。

(守山高校 2 年生)

『三日間の幸福』**三秋 縋 著****KADOKAWA／メディアワークス文庫**

あなたは、自分の寿命を売れるとしたら、1年あたり何円で売れると思いますか。本作は命の値段や幸福など哲学的なことを考えさせられる作品です。自分の人生とは。価値とは。誰もが一度は悩む壁にぶち当たった時に読んでもらいたい一冊です。私が思う、この作品の見所は、主人公が抱えるリアリティのある苦悩がえがかれているところです。最後に、このタイトルの意味を知ったとき、誰もが感動すると思います。

(大津高校 1年生)

主人公は「クスノキ」という名前の大学生です。お金に困った主人公は寿命を買い取ってくれるお店に行き、最低買取価格の1年につき1万円で寿命を売ってしまいます。そして残り3カ月で今までの人生を見直し、監視員の「ミヤギ」と共に自分が本当にしたいことを考え始めます。自分の生き方を改めて考え直し行動する主人公を見て、読み終えたら色々な事に挑戦したくなるような物語です。

(大津高校3年 藤本 晴菜さん)

自分の寿命を一年一万円で売ったクスノキと、その残り数カ月の余生を監視するミヤギ。ただ意味もなく長く生きるよりも、短い人生を大切に生きる方が幸せなのかもしれない。これからどうしたらいいかわからないクスノキは、ミヤギとともに本当の幸せを見つけていく。お金、時間、愛…。何が人生に必要なものなのかについて考えさせられる。最後に、驚きと温かい思いが胸にあふれる一冊。

(守山高校2年 山口 詩織さん)

『母性』**湊 かなえ 著****新潮文庫**

「なぜ、子どもを愛するのか？」そんな問いが冒頭に出てきますが、この作品の見どころは、母親や娘、父親や祖母など多くの視点からの「愛」を良くも悪くも様々な形で表現されている作品となっています。特に母親であるルミ子は自分の母親を異常に愛しているので娘には間違った愛し方をしてしまいます。そんな母親と娘の不気味な愛を描いており、現実的にありえそうな空気感が伝わってくる作品となっています。

(大津高校3年 大上 夏奈さん)

『水族館ガール』**木宮 条太郎 著****実業之日本社**

三年間市役所に務めていた嶋由香は緊急要請により市立水族館「アクアパーク」で働くことになった。担当はイルカ課で毎日無愛想な先輩・梶と顔を合わせることに。初めは何もできなかった由香だがイルカと向き合ううちにイルカの「遊び相手」になることを学んでいく。個性豊かな水族館スタッフたちと由香がさまざまな経験と失敗をしながらも成長していき、水族館の裏側を知ることができる生き物好きのための本です。

(守山高校1年 河南 柚寿さん)

『ゾウの時間ネズミの時間』**本川 達雄 著****中央公論新社**

動物には、たくさんのサイズが違ったものがある。ゾウのような大きいものもいれば、ネズミのような小さいものだってあるのだ。さらには、「ゾウにはゾウの時間」、「ネズミにはネズミの時間」が存在する。動物のサイズによって流れる時間が違う。つまり、それぞれの「世界観がまったく」違うということなのだ。「サイズという視点を通して、生物を、」さらには人間について考えてみてはどうだろうか。

(守山高校 1 年 久保 寛人さん)

『世界のオモシロお仕事集』**盛田 則夫 著****中央公論新社**

世界には、私たちが想像もつかないようなおもしろい仕事がたくさんあります。例えば、他人の葬式で泣くことを仕事とする「泣き女」や、「道端に体重計を出し、」体重をはかってくれる「体重はかり屋さん」などです。一見必要のない仕事にも思えますが、「なかには、数百年にもわたって存続している」ものもあり、「ちゃんとニーズと見合った収益がある仕事」なのです。仕事の背景を知る事によって社会の様子や文化も学べるでしょう。

(守山高校 2 年生)

『夜行』**森見 登美彦 著****小学館**

彼女が消えた夜から十年。あの日一緒に祭りに行った五人が集まり、空白の十年間を語り合う。五人がそれぞれの場所で出会っていた謎の連作絵画「夜行」とは何なのか、また彼女に会うことができるのか。この物語の多くは闇の中に隠されており、解決しません。解釈の仕方によって自分だけの夜行の世界が広がるのが魅力です。何回も読み返したくなるような話になっているので、ぜひ読んでみてください。

(大津高校 1 年生)

『学校のぶたぶた』**矢崎 存美 著****光文社文庫**

スクールカウンセラーの山崎ぶたぶたは見た目はぶたのぬいぐるみ、声は 40 代のおじさんという少し変わったカウンセラーだ。何に悩んでいるのか分らない、話したくない、いじめ、家族関係、友達、将来ハゲるかも、とぶたぶたのもとには悩みを抱えた多くの相談者が来る。最初は誰もがぶたぶたを見て驚くが、可愛い見た目、そして何より相談者の心に寄り添い続けるぶたぶたに少しずつ心を開いていく。ぶたぶたの人柄に心温まる物語。

(守山高校 1 年 齋藤 梨花さん)

『93 番目のキミ』**山田 悠介 著****河出文庫**

この本は一人の大学生と感情を持つロボットが繰り広げる友情物語です。しかし、単なる友情物語ではなく感情を持つロボットとの関わり方を考えるきっかけになる本でもあります。今の世の中、携帯があれば本当の別れはあまりないように感じますが、覚悟を決めた別れはとても重く、切ない。特に最後のシーンはまるで自分の目で見ているような表現でロボットのシロのシリアルナンバー 93 は私にとって忘れ難い数字となりました。

(水口高校 1 年 川本 真瑚さん)

のび太君を知らない人はいないと思う。アニメ「ドラえもん」は世界中の人々に人気があるからだ。この本はのび太君を別の視点から見ている。のび太君は泣き虫でドラえもんに頼ってばかりいると思っている人も多いだろう。この本を読むと、自分より他人を優先するやさしさや何事にも諦めず立ち向かう姿勢など普段気づかない人間性が伝わってくる。のび太が未来を変えることができたように僕達の未来のために読んでみてはどうですか。

(甲西高校 1 年 萬里小路 昂俊さん)